

この冬の日本は寒い！ とはいうものの、ロシアの酷寒は想像を絶するもので、ナポレオンもヒットラーもこれにはかなわなかった。どんなに優れた将軍や指令官よりも「冬の酷寒」の方がはるかに頼もしい。これが「冬將軍」の謂れだ。

ロシアにトラックを輸出している日本の某社にとって、この酷寒に対応できる車を提供するための寒冷地試験は欠かせない。シベリアでの試験には通訳者も同行するので、通訳を派遣する我が社としては大切なお得意様だった。それなのに飲み会を主催してくれるのはいつもあちらで、どちらが客だかわからない。「この次は私どもで」は口先だけ、ちゃっかりご馳走になっていた。

目的地は極東ロシア北東部、オホーツク海北岸に位置するマガダン、かつては流刑地であり、強制労働の拠点になった町だ。豪雪と強風に加え、一年の大半は氷点下三〇〜四〇度、交通の便も悪いため、二〇世紀半ばまで開発が進まなかった。こんなところで一週間もどんなテストをしたのかと数年前の資料をひも解けば、尿素水・操安性・ヒーティング・排ガス・前方視野などの言葉がちらほら。

マガダンなどで驚くのはまだ早いと息巻くのは、サハ共和国の北東、北極の少し南、人間の定住地としては世界で一番寒いオイミヤコン村だ。氷点下五〇度なんて当たり前で、一度を記録したこともあるという。うっかり深呼吸しようものなら肺が凍りついてしまうので人々はそおつと息を吸う。お互いに助け合わなくては生きていけない環境だからこそ人々の絆も強いのだそうだ。

そんなオイミヤコンでも人間が定住できるだけまだマシかもしれない。南極の最低気温はなんと氷点下八九度！ 寒い戸外で鼻水が出るのはよくあることで、これは肺を守るための機能が働いている証拠で、人間としてごく自然な防御反応だ。南極のような超ド級の極寒地では、次から次に出る鼻水を吸収しきれない。呼吸するたびに鼻水が次々と凍って、長い「鼻つらら」ができる。鼻の穴から氷柱がニユツと突き出しているなんて、人間を卒業したかのように、一度は体験してみたいものだ。